旧 小 武 織 物

広沢町五丁目、丸石が積み上げられた石垣と板塀で囲まれた５連の切妻造が建ち並び、迫力ある景観を形成しているのが、旧小武織物の建造物群である。

小武織物は、小林武一郎氏が昭和１０年（1935）に創業し、同３４年（1959）に小武織物有限会社を設立した。主に、袋帯を生産し、二間続きの座敷に帯を広げて商売をしていたという。後年はレース製品も手掛けたが、昭和５１年（1976）に織物業を廃業した。武一郎氏は桐生市会議員（1951－1959）、桐生商工会議所副会頭（1963－1964）、桐生内地織物協同組合常務理事などの要職を務め、繊維業界の振興はもとより、桐生市の発展に尽力した。

敷地内には、武一郎氏の父、金二郎氏が明治４５年（1912）に建てた主屋と、昭和２３年（1948）から２９年（1954）の間に継ぎ足すように建てられた木造平屋の切妻４連の工場に木造二階建ての従業員宿舎と門付近の二つの小屋、昭和４２年（1967）に増築した工場が均整のとれた形態で残っている。建物群を取り囲む石積みの塀は、昭和２２年（1947）９月、渡良瀬川流域に甚大な被害を与えたキャサリン台風後に建設されたものである。

現在、工場部分は使用されておらず、利用希望者への貸し出しを検討している。

歴史ある織物工場を保存していくために、新たな活用が急務となっている。

切妻４連の工場（背面）

所 在 地　桐生市広沢町５－１１１１－３
所 有 者　小林　重夫